本社外観

引抜いた汚水の約7割をその場で浄化し、リサイクルできます

街路樹の剪定枝と
汚泥を合わせたペレット

事務所

毎週木曜日に野菜の直売会を開催

第15回 トップインタビュー

# 株式会社 日本環境管理センター

〒503-0312　岐阜県海津市平田町三郷493　https://www.nikkan-c.co.jp/
創業／昭和32(1957)年4月　資本金／1,000万円　代表取締役／牧野 好晃　従業員数／64名(2023年9月現在)
事業内容／一般廃棄物収集運搬･処分、浄化槽清掃･保守点検･工事、下水道施設維持管理、産業廃棄物収集運搬･処分、廃棄物再生事業、野菜･肥料販売
[平田リサイクルセンター]　岐阜県海津市平田町三郷482

## ゴミを出さずに知恵を出す。地域の資源を循環させる新しい仕組みを創っています。

代表取締役　牧野 好晃 さん

**[若山]　資源のリサイクルや農場経営、体験教室など、様々な取り組みをされていますね。事業の始まりは何ですか。**

**[牧野社長]**　創業は昭和32(1957)年、先代が海津市(当時:海津郡)で始めた一般廃棄物処理業です。
今でこそ、一般･産業廃棄物など、様々な廃棄物の処理･処分も形を整えてきていますが、法が整備されていない当時は、地域から出る“し尿 ”を処理する事さえも大変な苦労をしてきたと聞いています。廃棄物と言われるもの(し尿、ごみなど)は、社会において毎日出るものです。誰かが収集し、適正な処理をしていかなければなりません。処理施設が整備されていない大変な時代をえて公衆衛生に寄与するため、業界が一丸となって、現状を変えていくべく組合が設立されました。

**[若山]　高度経済成長を機に下水道や浄化槽が普及しました。近年は、浄化槽の利点が再注目されているそうですね。**

**[牧野社長]**　浄化槽は日本で生まれた小型の排水処理施設です。下水道を敷設しにくい地形でも個別に設置することができます。万が一地震が起こっても早期に復旧できるため、災害対応力が高いと評価されています。浄化槽は、微生物の働きで汚水を分解し、きれいな水に変えてから河川などに流す仕組みです。槽底に残った汚泥(沈殿物)は水質悪化の原因となるため、定期的にバキュームカーで引抜き処理場に投入します。海津では平成2(1990)年に下水道が整備されました。下水道からも汚泥は出るため、これを再生する方法はないかと当社は考えました。5年ほど試行錯誤を重ね、リサイクル肥料「炭化汚泥※1」を独自に開発しました。事業化したのは平成14(2002)年、SDGsという言葉が生まれる10年以上前の話です。
炭化汚泥は、市内で排出された汚泥を炭にして減容化を図り、肥料にかえて農地に還元するものです。ミネラル豊富な肥料を持って地元農家を訪ねると、思いの外反応は冷ややかでした。「品質が確かでないと仕事には使えないよ」と。「それなら当社が実証しますね」とカノンファーム(約6,000坪の農園)を作り、翌年には野菜を育て始めました。
その後、海津市さんから「廃棄物で燃料を作れないか」という相談を受け、開発したのが剪定枝のペレット燃料です。これも実証が必要と考え、平成26(2014)年にグリーンパパイヤの温室栽培を開始。ペレット燃料でボイラーを動かし、温度管理しています。

**[若山]　捨てるしかない廃棄物が、見事に「資源」になりました。**

**[牧野社長]**　当社では、環境への取り組みや安心安全のサービスについて、正しくご理解いただくために様々な講座や体験教室を開催しています。汚泥処理工場の竣工時には、小学生からお年寄りまで、海外も含めて年間1,000人超に見学していただきました。
次世代を担う子供達を育てる目的で、平成14(2002)年に始まった『ぎふ地球環境塾※2』では、企業の方や、大学の先生方など専門家を講師に迎え、月1回親子で学びます。意識の向上、知識の裏付け、親子のコミュニケーションの深化など、おかげ様で参加された方にはご好評をいただいています。
以前、環境塾の講義の中でこんな問いかけがありました。「燃えるゴミは処理場へ、下水の汚泥は肥料に。では天ぷら油はどうするの?」と。国内で燃料化ができれば…と考えていたところ、不純物を99.8%除去できる画期的な機械が登場しました。茶色く濁った天ぷら油が、クリーンな高純度バイオディーゼル燃料(ReESEL※3)に変身!
さっそく無料の廃油回収所「わくわく油田スポット」を、地元市民の皆さんの協力のもと各所に設置※4、集まった油でバイオ燃料を作っています。
私たちは、バイオ燃料を作る過程で生まれる廃棄物(グリセリン)も捨てません。油汚れがよく落ちる家庭用洗剤「ウォックル」を開発し、この秋販売予定です。
建築現場でよく見かけるディーゼル車ですが、一般車両を目にする機会が少なく、それなら公用車をディーゼル車にして実証しようと、この春海津市に寄贈しました。1年間、100%バイオ燃料を使った車の走りや乗り心地などを職員の方にモニタリングしていただく予定です。廃油については今後もいろいろ活用できそうですが…。悩ましいのは時代の流れがディーゼル車から電気自動車にシフトしていることです。バイオ燃料を最大限に活用していただくために、近い将来、バイオ燃料の充電スポットを設け、ディーゼル車も電気自動車もそこに集えるような環境を整えたいと考えています。

**[若山]　廃棄物の地産地消という言葉を使われていますね。**

**[牧野社長]**　炭化汚泥の開発から20年ほど経ちました。今後は時代のニーズにあわせて、「より美味しい野菜が育つ」肥料づくりを目指したいと思います。具体的には新工場を建設し、コンポストを使って汚泥の肥料を作る予定です。これは、微生物の力で分解発酵させて肥料を作る仕組みですから、脱炭素の取り組みでもあります。
地域で育てた作物を地域で食すのが環境に優しいように、地域で排出したゴミは地域で資源化して消費するのが望ましいと思います。むやみにゴミを出さないためには、一人ひとりがいかに無理なく使えるものにするかのアイデアが大切です。
創業以来当社では、地域のお困りごとに目を向けて、いま何が求められているかを考え、サービスや商品を実現してきました。これからも、社内外の皆さんのいろんな知恵をお借りして、人とともに、暮らしとともに、地域とともに歩み続けていきたいと考えています。

**[若山]　新しい仕組みづくりに、だいしんのビジネスマッチングをご活用ください。本日はありがとうございました。**

語り手／株式会社 日本環境管理センター　牧野 好晃 さん
聞き手／大垣西濃信用金庫 事業成長推進部 部長　若山 謙一

※1 民間では日本初
※2 一般社団法人 ぎふ地球環境塾(日本環境管理センター内)が運営
※3 一般社団法人 高純度バイオディーゼル燃料事業者連合会（星子桜文 代表理事）
※4 大垣西濃信用金庫 今尾支店にも設置中

使用済みの天ぷら油を高純度バイオ燃料に再生

お好きな時に資源ゴミを
無料で持ち込める
(火･水曜休)

西濃地域のおすすめショップ紹介

## 博多ラーメン　一木（いちき）

自家製チャーシューも大人気

博多で出会った感動を、
麺・醤油・スープ
すべてに込めて。

コクと旨みが凝縮された豚骨スープに良くからむ、しなやかな平打ち細麺。ふわっと小麦が香るのは、ラーメン好きも膝を打つ福岡「慶史」の製麺です。かえしは、福岡伝統の「ヤマタカ醤油」を配合したオリジナル。スープは、地元養老町で仕入れた豚骨の部位をいくつか組み合わせ、くさみのないまろやかな味を完成させました。博多の味を、ぜひ岐阜で。

2023年3月28日OPEN

木のぬくもりを感じる店内

岐阜県大垣市松町667
営業時間／11:30～14:00(土日祝11:00～)
※LO13:45
定休日／月曜日